下野市成年後見サポートセンター 相談事例から見る対応の流れと課題について

事例の人物概要(フィクション)

- ・ひとり暮らし高齢者 ・市内に弟がいるが疎遠 ・判断力低下(保佐相当) ・生活保護受給中
- ・要介護3 ・在宅困難のため長期ショートステイ利用中 ・歩行困難、車いす生活
- ・施設にて一時的に通帳と現金を預かっている ・各種請求の督促状が届いている
- 課題 ・金銭管理、支払い ・書類手続き ・入所施設の手続き ・督促状の対応 ・自宅売却

…各対応での 良い点や課題点…

【4月～5月】

- ・担当ケアマネから「制度利用について相談したい。本人も支援を受けたいと希望している。」と問い合わせ。上記の人物概要を把握。
- ・過去に相談対応した地域包括支援センターと情報共有し、さらに自宅や相続に関する課題を把握。

- ・サポセン職員、包括がケアマネとともに本人と面談し制度説明、生活のご様子を聞き取る。会話は可能だが妄想話も多く「覚えていない」「わからない」という回答も多かった。医師の診断は保佐相当と把握。

- ・**相談窓口連絡会議**で本ケースを検討し申立の必要性を確認。

【6月】

- ・サポセン主催の**ケース検討会議(専門家を交えて)**
- ・後見利用の目的や課題について整理し、申立の必要性を検討。
- ・申立者が不在のため、市担当職員が同席して面談し本人の状況や判断能力を詳しく把握して方針を示すことにした。

【7月】

- ・サポセン職員、包括、市職員(高齢、生保)が本人及び施設職員と面談し話し合う。
- ・本人と会話し課題や困りごとなど聞き取りした。保佐相当だが本人だけで書類作成は困難な身体状態だった。

- ・「**法テラス特定援助相談**」を利用することを提案し、サポセン職員が本人に説明をしたうえで申込同意を取り、提出。相談当日にはケアマネとともにサポセン職員も同席することにした。

相談者の話だけでなく、本人の様子を伺い直接お話を聞きながら制度の説明や必要性の検討をしている

良い点

「相談窓口連絡会議」定期開催し、後見ケースを関係者と相談・検討できる場を作っている

良い点

必要に応じて、行政や関係機関などの調整をし、本人の意思を確認しながら話し合う機会を作っている

良い点

不安のある本人の相談が円滑に進められるよう、関係者とともに協働でサポートをしている

良い点

…各対応での 良い点や課題点…

【8月】

・法テラスで申込書が受理されたが「法の専門家の日程調整には、1～2か月以上かかる」と示された。連絡を待つことに。

～～本人が入院し面談は延期。様子を見ることに～～

【10～11月】

・入院中の病院からしばらく退院が見込めないとの見解あり。金銭管理及び身上保護の課題が浮き彫りに。

・ケアマネ及び医療SWから「本人にも確認したので、制度利用の相談と手続きをなるべく早く進めてほしい」との相談あり。これまでの経過を説明し、制度利用までには手続き等で時間がかかることに理解をしていただく。

・改めて司法書士(リーガルサポート登録者)へ直接相談し、入院先での面談をセッティング。

・初回面談するも、長期入院と術後で体調が優れないためか、本人の声が全く聞けず、質問に頷くのみ反応。制度利用についての同意は確認できたが、日を改めて確認と説明をすることにした。

【12月】

・再度、司法書士相談をセッティングしていたものの、本人の体調不良で延期。

【1月現在】

●本人の意思を主として申立てを進めているが、体調不良や手術、治療等で、面談や手続きがなかなか進められない状況…

課題点

法テラス特定援助相談は一定の私財のない方が、助成を受けて法的課題の相談ができる(支援者から申し込むことも可能)

相談の内容によっては、専門相談の調整にかなりの時間を要するのが現状である。

課題点

キーパーソンがいない方は、やむを得ず施設等で通帳や印鑑を預かり品として保管することがあるが、判断力低下している場合は権利侵害の可能性も生じる。

通帳管理や施設契約を主な目的にした制度利用については疑問の声もあるが、現場では無視できない課題点である。

課題点

本人を主とした「本人申立」を検討し、助言や情報提供、繋ぎなどを行いフォローしているが、サポートセンターとしてできる「本人申立の支援」は、ほかにどのようなことに対応できるだろうか。